

第3学年2組 国語科学習指導案

第2校時 場所 3年2組教室 指導案 木下 忠志

1 単元名 人物の気持ちの変化に気を付けて読み、「りいにインタビュー」をしよう（「まいごのかぎ」光村図書3年上）

子どもたちはこれまでに、行動や会話、地の文などの叙述を基にして登場人物の気持ちを捉える力を身に付けてきている。しかし、物語全体を通して、複数の叙述を関連付けながら気持ちを捉えることができている子どもたちも少ない。

そのような子どもたちに、本単元では「まいごのかぎ」に出合わせる。本作品は、繰り返し起きる不思議な出来事を通して主人公の気持ちが大きく変化している様子が描かれている。叙述の中には主人公「りいこ」の気持ちを直接的に表現した言葉とともに、行動の様子から気持ちを読み取ることができる表現が多く登場し、場面の移り変わり結び付けることで気持ちの変化を具体的に想像することができる。

そこで本単元では「人物の気持ちの変化に気を付けて読み、『りいこインタビュー』をしよう」という単元を構想する。「りいこインタビュー」に取り組む中で、人物の気持ちの変化を具体的に捉え、言葉による見方・考え方を働かせて想像したことをインタビューの中で表現していくことで、「創造」をたのしむ子どもたちの姿を生み出していく。

2 単元について

- (1) 本単元では「まいごのかぎ」を学習材として取り扱う。物語を読んで感じたりいこへの疑問をインタビューすることで、人物の気持ちの変化を具体的に想像する力の育成をねらう。

本学習材「まいごのかぎ」は、5つの場面から構成されており、場面が移り変わるごとにりいこの気持ちの変化していく様子が描かれている。物語はりいこの視点に寄り添った三人称限定視点で描かれており、叙述の中にも気持ちを表す言葉が多く登場している。そのため、場面の移り変わり結び付けることで、物語全体を通して大きく変化していくりいこの気持ちを具体的に想像することができる作品となっている。

そのような学習材の特徴を生かし、本単元では場面の移り変わり結び付けて、人物の気持ちを具体的に想像する「りいこインタビュー」という言語活動を設定する。具体的には、物語を読んで感じたりいこに対する疑問を基に、読者の立場からりいこにインタビューをするという活動である。その中で、自分たちの感じた「なぜそうなのか」「どのような気持ちだったのか」などの疑問に、りいこの立場になって答えることで、根拠となる叙述やそれらをどう関連付けたかを明らかにしながらりいこの気持ちを具体的に想像することができるようにする。

- (2) 子どもたちはこれまでに「きつつきの商売」を学習材とした気持ちを具体的に捉える学習に取り組んでいる。行動や会話、地の文に着目しながら人物の気持ちを捉える学習を行ってきている。ここでの学習は「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」で物語の出来事を捉えて感想をもったり、人物の性格を捉えたりする学習へとつながっていく。
- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。（調査人数：36名）
- ① ほとんどの子どもが叙述を根拠として気持ちを捉えることができる。
 - ② 複数の叙述を結び付けながら気持ちを捉えることができる子どもは数名程度である。

3 単元の目標

- (1) りいこの様子や行動，気持ちを表す言葉に着目し，気持ちを表す語句についての表現を増やすことができる。
- (2) インタビューすることを通して，りいこの気持ちの変化を場面の移り変わりや根拠となる叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。
- (3) 他者とともにインタビューをしながら粘り強くりいこの気持ちの変化を想像し，想像したことを基にして，りいこのインタビューに対する答えをつくりかえている。

4 指導計画（7時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法等
1	1 単元の見直しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「まいごのかぎ」と出合わせ，物語を読んで感じたことを基に，どのような言語活動がたのしめそうかを考えさせる。 ○ 「話す・聞く」単元での言語活動を想起させ，インタビューをするという言語活動を設定する。 	
りいこの気持ちが変わったところに気をつけて読み，「りいこインタビュー」をしよう			
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	2 インタビューをしながら，りいこの気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ インタビューを行う中で，気持ちや様子を表す言葉に着目している子どもを取り上げ，叙述を関連付けながら気持ちを具体的に想像することができるようにする。 ○ 「なぜりいこが何度もかぎをさしたのか分からない」という困り事を取り上げ，インタビューをする中で着目した叙述を基にりいこの気持ちを考えられるようにする。 ○ 本時では，複数のインタビューを全体の場で取り上げ，根拠となる叙述やその理由を比較することで，気持ちを具体的に想像することができるようにする。（第5時） ○ 前時の学習から見いだした解決策を基にして，りいこのインタビューの答えをつくりかえることができるようにする。 	<p>【知】人物の気持ちを表す叙述を見いだすことができている。（発言・記述）</p> <p>【思】りいこの気持ちやその変化を，叙述を基にして想像し，インタビューの答えをつくりかえている。（発言・記述）</p> <p>【主】粘り強くりい子の気持ちを想像し，インタビューをつくりかえている。（発言）</p>
7	3 学習課題の達成を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を通して関連付けてきた叙述を根拠にして，りいこインタビューにりいこの気持ちの変化が表現できているかを互いに伝え合うことができる。 	<p>【思】叙述を根拠として，友だちのインタビューの良さを伝え合うことができる。（発言・記述）</p>

5 本時の学習

(1) 目標

なぜりいこがいつまでも手を振りつづけていたのかを中心にインタビューする活動を通して、場面の移り変わりと結び付けてりいこの気持ちの変化を想像することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習の課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前の授業では、4の場面まででインタビューの答えを考えることができたよね。 ○ なんでりいこが何度もかぎをさしたのか、りいこになりきってみたら、分かってきたよね。 ○ でも、インタビューをしていたら、最後の場面のりいこの気持ちが、まだよく分からないところがあったんだよね。 ○ どうしてりいこは、いつまでも手を振り続けていたんだろう。
15	2 「なぜいつまでも手を振り続けていたのか」を中心に、インタビューのやりとりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ りいこがどうしていつまでも手を振り続けていたのか、インタビューで聞いてみたいな。 ○ どの文から考えるとりいこの気持ちをインタビューで答えられるかな。 ○ 「みんなも」ってことは、桜の木やベンチも好きなことをしたいって思っていたのかな。 ○ そうか。「はっと気づいた」のは、余計なことだと思っていたことが、本当はみんなが楽しいことをしていたと気づいたってことか。
15	3 どの叙述と叙述を関連付けてりいこの気持ちを考えたのかを全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かに。「みんなも」ってことは、りいこも本当は好きなことをしたかったんだよ。 ○ そうか、だから最後に消えたはずのうさぎがまたりいこの前に現れたんだね。 ○ りいこが自由に想像してもいいんだって思えたから、またうさぎが現れたんだよ。 ○ もしかしたら、かぎの正体はうさぎだったのかもしれないね。りいこの気持ちを幸せにするためにりいこの前に現れたのかもしれないよ。
10	4 再度インタビューを行い、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ りいこの気持ちが、物語を通して変わったのがよく分かったので、次の時間には最後の場面のインタビューをもう一度つくりかえてみたいですよ。



子どもたちは、前時までにインタビューをしながら、叙述を基にりいこの気持ちを想像してきました。本時では、「みんなもすきに走って見たかったんだね」というりいこの会話文に着目している子の考えから、物語を通してりいこの気持ちがどう変わったのかを想像していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 前時までの学習を振り返り、これまでのインタビューを通して考えたりいこの気持ちを共有するとともに、最後の場面に困り事を感じている子どもの振り返りを取り上げ、りいこの気持ちが物語の最後でどう変化していたのかについて考えることができるようにする。
- 実際に最後の場面のインタビューをすることを通して、何と答えて良いかわからないという困り事やもっと良い答えを考えたいという子どもの思いを引き出すことで、本時の課題を設定することができるようにする。

なぜ、りいこはいつまでも手を振り続けていたのだろうか。

- どの叙述に着目するとりいこの気持ちを考えられそうかを全体で共有することで、同じ叙述に着目している相手を選択して、インタビューを行うことができるようにする。
- インタビューの様子を見取り、「みんなも」という叙述に立ち止まっている子どもには、「なぜそう言ったのか」を問うことで、りいこが不思議な出来事を「よけいなこと」ではなかったと捉え直していることに気付くことができるようにする。
- 最初の場面のりいこの様子と関連付けている子どもには、自分のインタビューシートを見返すように促し、最後にはりいこの考え方が変化していることに気付くことができるようにする。
- 複数のグループにインタビューのやり取りを実際に全体の場で演じさせ、「りいこの答え」の根拠とした叙述とそう考えた理由を比較することで、根拠となる叙述と「自分だったら」という生活経験に基づく考えを関連付けながら気持ちを想像することができるようにする。
- 「うさぎが～」の叙述に立ち止まっている子どもの考えを全体で取り上げ、「なぜ、りいこの前にまたうさぎが現れたのか」について考えさせることで、りいこの気持ちの変化をうさぎの存在と関連付けながら想像することができるようにする。
- かぎとうさぎの存在を関連付けて考えている子どもを取り上げ、りいこの気持ちの変化との関係を考えさせることで、ファンタジーの物語を読む面白さを感じることができるようにする。
- 話し合ったことを基に、再度ペアでインタビューを行う場を設定することで、想像したりいこの気持ちの言語化を促し、考えたことを振り返ることができるようにする。
- 本時の学習で新たな課題が出た子どもがいた場合は、全体で共有し、どのように解決できそうかを考えさせることで、解決への見通しをもつことができるようにする。

【教材・教具】

- 本文拡大掲示
- インタビューシート
- 挿絵拡大掲示
- マイク・名札

【評価】

叙述と叙述を結び付けて人物の気持ちの変化を具体的に想像し、自分のインタビューをつくりかえることができる。(記述・振り返り)

